

学校体育館空調設備の設置方針について

(付議の要旨)

全区立小・中学校体育館への空調機器設置を計画的に進めていくため、設置方針を取りまとめたので、報告する。

1 主旨

区では、小中学校体育館における授業や行事に大きな影響を与えた今夏の猛暑など、昨今の気象状況の変化を踏まえ、主に児童生徒の健康を守る観点から区内の全小中学校90校の体育館に空調設備を設置する。また、これにより、災害時の避難所となる学校体育館の機能の充実を図る。

2 空調機の機能

冷暖房機能を持つ機器を設置していく。

なお、教育委員会が運動等を中止する目安としている気温35度、暑さ指数(WBGT)31度を下回るための冷房機能の能力を目標として機器を設置していく。

3 設置機種

EHP(電気式ヒートポンプ:冷房能力40kw程度)の空調機を基本に設置する。

変圧器容量が不足する学校については、キュービクル改修を実施の上、EHP空調機設置工事を行う。

なお、GHP(ガス式ヒートポンプ)は、室外機が大きく、音も他機種に比べて大きいため、設置場所の確保も困難。ただし、キュービクル改修の費用が高額となる学校についてはGHPの設置も検討する。

4 整備スケジュール

平成30年度(2018年度)より空調機器の設置に向けた事前調査、一部設計に着手するとともに、最終補正において、キュービクル改修を要しない学校(16校を想定)への設置経費を計上する。現在、進めている学校の耐震再診断後に行われる耐震補強工事との兼ね合いなどから平成33年度(2021年度)の夏までに全小中学校の体育館に空調機を設置することとするが、発注方法の工夫等により、できる限り前倒しし早期設置を目指し調整する。

平成 30 年度（2018 年度） 全校のキュービクル調査を実施し、キュービクル改修の有無と改修内容を把握。

平成 31 年度（2019 年度） キュービクル改修を要しない学校ならびに、体育館の耐震補強工事を実施する学校について空調設置工事を実施

平成 32～33 年度（2020～2021 年度） 残りの学校の空調工事を実施予定

※なお、下記の 7 校については、以下のとおり対応する。

- ・ 砧小学校については改築校であり、補助金を返還しなければならなくなるため、整備手法（補助金の対象外）を検討する。
- ・ 改築工事中の若林小学校、代沢小学校は設計変更で対応し、平成 31 年度（2019 年度）に設置する。
- ・ 増築工事予定校については実施設計の中で対応し、以下の年度に設置する。

平成 3 1 年度（2019 年度） 松原小学校

平成 3 2 年度（2020 年度） 芦花小学校・芦花中学校、希望丘小学校

5 予算

総額約 2 4 億 3 千万円を想定しており、内訳は以下の通り。

- ・ 空調設置工事費 約 1 8 億円（1 校当り 2, 0 0 0 万円程度を想定）
- ・ キュービクル改修費 約 5 億円（1 校当り 1, 0 0 0 万円程度で、仮に 5 0 校が改修となった場合を想定）※設計費については別途。
- ・ 空調設置工事の設計委託費 約 1 億 3 千万円（1 校当り 1 5 0 万円程度を想定）

6 交付金、補助金の活用

交付金等活用のため工事に対応する。

なお、国の「学校施設環境改善交付金」のほか、新たに創設される予定の国の臨時特例交付金や都の補助制度を活用して整備する。